

EUによる難民危機への対応に深く失望 — 国際公務労連と欧州公務労連

2015年9月15日「私たちは、欧州の難民危機に対してEUが人道的かつ恒久的な解決策に到達できなかったことに深い失望を表明する。」

世界中の2千万人の公務労働者を代表するグローバルな労働組合連合組織である国際公務労連(PSI)は、その姉妹団体である欧州800万人の公務労働者を代表する欧州公務労連(EPSU)と共に、9月14日のブリュッセルにおけるEU司法・内務理事会の臨時会合の結果に対して、次のようにコメントする。

「EU諸国が、難民を保護するという人権ならびに人道的責務に背を向けるのを目にして、非常に失望し、憂慮します」と、ローザ・パヴァネリ国際公務労連書記長は語る。「難民危機が始まって以来、私たちは難民の安全な通過を認めるため、そして隣接国での不当な非実際的な現況を軽減するために、ダブリン規則の停止を要求してきました。欧州全域の国々の間で難民の再定住を公平に分ち合い、避難所と難民へのサービスのために十分な公的資金と熟練のスタッフを提供するよう訴えました。しかし緊急会談によって達した結果は、「欧州の要塞」をさらに強化し、アフリカなどの他地域に難民キャンプを開いて欧州の責任を第三国にシフトすることでした」と、パヴァネリは強調する。

この2日間に、国境検問所がドイツ、スロバキア、オーストリア及びハンガリーで再開された。メディアの報道によると、ハンガリー警察はセルビアからハンガリーに必死に入ろうとする一万近い人々を逮捕し、拘置した。軍隊が配備され、人々、子連れの家族が国境を越えないようにするためにレイザー・ワイヤーのフェンスで国境が強化された。「ハンガリー政府が行っていることは犯罪です。これはとんでもないことで、ヨーロッパにとって受け入れられないことです。こうした行動は欧州の本質的価値観を脅かすもので、国際難民法にある私たちの義務から眼をそらすものです」と、パヴァネリは言う。

PSIとEPSUは、難民危機に際して欧州の連帯と尊厳および一貫性を求める声明

(<http://www.world-psi.org/en/make-europe-safe-haven-refugees-now>)をEUと西バルカン諸国の首脳に送った。

「公務労働者は、亡命者や難民の受け入れと、彼らへの緊急医療やシェルター及び社会サービスへの提供の最前線にいます」と、パヴァネリは語る。「私たちと同じ人間でありながら危険と迫害から逃れてくる人々に対して、私たちは地方自治体や市民社会と一緒に思いやりと連帯を示し続けます」と、彼女はつけ加えた。

「目を追うごとに、危険と苦痛のなかに置かれている人々が増えている」と、ヤン・ヴィレム・グードリアンEPSU書記長は語る。「PSIとEPSUは、10月8日-9日に会合すると思われる閣僚理事会で確固たる行動がとられることを期待しています。私たちは、今すぐ！にヨーロッパを安全な難民の避難場所にすることを要求します。」